

「生活に関わるエネルギーの話題」

あの苦労した経験を機に、
二度と繰り返さないために

- ・災害時・緊急時に必要なエネルギーの確保
- ・災害復興住宅におけるエネルギー源の選択

入場無料

平成24年12月11日(火) 13:15~16:45

仙台市福祉プラザ・ふれあいホール

仙台市地下鉄「五橋」駅すぐ「仙台市青葉区五橋2丁目12番2」

主婦の方、お年寄りの方、ご参加、大歓迎です！

13:15 - 13:45

はじめに ～緊急時のエネルギー確保と、再生可能エネルギー～
石油学会東北支部・MELON理事 村松 淳司

13:45 - 14:25

石油製品の安定供給と仙台製油所の復興の現状
JX日鉱日石エネルギー・仙台製油所 浅野 英樹

14:25 - 15:05

MELON版復興住宅について
(公財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク

15:15 - 15:55

太陽光発電について
(社)太陽光発電協会 岡林 義一

15:55 - 16:35

家庭用燃料電池について
JX日鉱日石エネルギー・東北支店 作能 卓也

16:35 - 16:45

総括

主催：石油学会東北支部

後援：日本化学会東北支部、化学工学会東北支部など

協賛：(公財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON)

お問い合わせ：東北大学多元物質科学研究所・村松淳司 022-217-5163 mura@tagen.tohoku.ac.jp

現在、宮城県をはじめ各自治体では、被災者に対する復興住宅の仕様策定など、生活に関わる復興計画を推進しています。一方で、震災そのものと、福島第一原発事故から、電気や石油のエネルギー供給の不安定さが経験となり、再生可能エネルギー等を使用など、エネルギーの多様化が重要な関心事になっています。通常の電力供給の電気に頼らない一次エネルギーの推進や、電力源の分散化などが、被災者を始め多くの人の興味を中心になっています。

上記のような背景のもと、石油学会東北支部は、被災地にあるエネルギー関連学会として、住民の皆さんに生活に密接にかかわるエネルギーについて、専門家の立場から、懇切丁寧に話す機会を設けることが社会的責任であると考え、今回『緊急セミナー「生活に関わるエネルギー講話」』を開催するものです。

はじめに ～緊急時のエネルギー確保と、再生可能エネルギー～

石油学会東北支部・MELON理事 村松 淳司

東日本大震災では、電気・水道・ガスというライフラインがずたずたとなり、もっとも早い復旧をとげた電気ですら、多くの県民、市民は少なくとも1週間近い不自由を味わった。疾病を有する人や障がい者はより深刻な影響を受けた。大規模災害や緊急時のエネルギー供給をどう考えるか、地産地消エネルギーとは何か、また融通の利く再生可能エネルギーとは何か。さらに、災害復興住宅として採用した方がよい身近なエネルギーシステムとはどのようなものか。初心者向けエネルギー講話を行う。

石油製品の安定供給と仙台製油所の復興の現状

JX日鉱日石エネルギー・仙台製油所 浅野 英樹

東日本大震災では、電気・水道・ガスのほか、灯油やガソリンが手に入りづらくなり、少ない資源を求めて、消費者が長蛇の列を作るという異常事態が、震災後約20日間にわたって起こった。実際には十分な量が出回っていたが、東北の被災地だけでなく東京など多くの地域で家庭備蓄が進んだためと思われる。この中で、東北地区のLPG、灯油、ガソリンなどを供給する重要な拠点である、仙台製油所がどう復旧し、石油製品の安定供給に貢献したか、3月11日まで廻って振り返る。

MELON版復興住宅について

(公財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (略称:MELON)

MELONはこの11月1日宮城県知事に「宮城県産材を使用した地球環境に優しい復興住宅の提案」を提出した。それは復興の大きな柱のひとつである災害復興住宅について地球環境保全の立場から具体的な仕様等を提案したものである。本「提案」は、宮城県産材を利用した木造住宅の推進を基本とすること、②省エネルギーと環境負荷の低減に貢献すること、③緊急時・災害時のエネルギー確保に配慮すること、④再生可能エネルギーの導入を考慮すること、という4つの基本的な考え方に基づいて作成されており、これについて詳述する

太陽光発電について

(社)太陽光発電協会 岡林 義一

MELON提案の中には、太陽光発電がリストされている。本講話は太陽光発電について、その原理、特徴や利用法など、具体的に利用者に分かる形で詳述するものである。これまで太陽光発電について、理解できなかった方や、他の発電や他の太陽光利用方法との違いが分からなかった方に最も適当な講話である。

家庭用燃料電池について

JX日鉱日石エネルギー・東北支店 作能 卓也

MELON提案の中には、太陽光発電とともに、地球温暖化ガスCO₂を発生するようなプロセスである、燃料電池もリストされている。これはより実情に沿った復興住宅の提案ということでリストされたものである。その低環境負荷性と、特にLPG燃料電池について、その原理、特徴や利用法について詳述する。太陽光発電、蓄電池とのシステム化により、非常用エネルギー源としても有効に使用することができる。